

みんな違ってみんないい

前橋市立箱田中学校 三年

北村 こころ

聞こえなかったのに、分かったふりをして失敗してしまったことはありませんか？ 私は、たくさんあります。

私は生まれた時から難聴という耳の障がいを持っています。何もつけないと友達や先生の会話も聞こえず理解できない為、補聴器をつけて聴こえるようにしています。ただこれをつけて生活していても、大人数の女子との会話やグループディスカッションは苦手です。一対一の会話と違って人数が増えると、聞こえにくくなるためです。

ある日、会話が聞き取れずに

「もう一回言ってくれる？」

と確認したところ、

「めんどくさいからもういいや。」

と言われたことがあります。その時は悲しくやるせない

気持ちになりました。それからの私は、分かっているふりをする事が多くなりました。素直に聞き返す事ができず、聞き取れなかったことを隠そうとする自分に嫌気がさすことも増えました。

また、ある時

「話し方が機械みたい。」

「外国人みたいな話し方ね。」

とクラスメイトに言われたこともありました。私はどうしてみんなと違うのか、もっと聴こえていたら：そんな風に悩んでいました。そんな時、祖母が言ってくれた言葉がありました。

「みんなそれぞれ違うんだよ。身長も、顔も性格も。違うからいいんだよ。耳が聴こえにくいこともあなたの個性と捉えて、他にできることを、得意なことを伸ばしていこう。」

その言葉を聞いて、人と違うことは恥ずかしいことではないんだと気づけました。

また、その頃学校で、耳に重い障がいを抱えながらラグビーのコーチをしている方の講演を聴きました。その方は、

「もごもご話されると、母音の同じ言葉とよく聞き間違いをします。だから、皆さんが話すときは、はっきりとした声で、ゆっくり話してほしいです。」

と、堂々と主張していました。聞き取れなかったことをうやむやにしない姿勢に、はつとし、今まで適当に返事をしてごまかしていた自分を変えよう、という勇気をもらいました。

私は今、自分の得意なことを伸ばす為に絵を描くことに励んでいます。あるポスターコンクールでは、県の最優秀賞もいただくことができました。美術の感性を互いに分かり合える友達にも出会い、今では障がいのことを受け入れてくれるかけがいのない親友もできました。祖母の励ましと、あの講演がなければ、私は前に進むことができなかつたと思っています。

世の中には、差別や偏見を感じる場面がたくさんあります。よく聞く「普通」という言葉にも、苦しんでいる人がいるかもしれせん。

一方で、世の中にはハンディキャップに負けずに、それを個性として生きている人がいます。そんな風に、

自分の不便なことに向き合って前向きに生きていく人って、かっこいいと思いませんか？

「みんな違ってみんないい。」

私は私でいい。私は難聴に負けずに、自分の個性を伸ばしていきます。